

## 平成27年度要望活動

須田健治新座市長が会長を務める「都市高速鉄道12号線延伸促進協議会（新座市、清瀬市、所沢市及び練馬区）」では、平成27年度中に予定されている国の交通政策審議会の次期答申において、地下鉄12号線（都営大江戸線）の光が丘駅から新座市方面、更にはJR武蔵野線東所沢駅までの区間が一体的に「整備すべき路線」として位置付けられ、早期に延伸が実現されるよう、国土交通省、同省関東運輸局及び埼玉県に対して要望を行いました。

平成27年11月9日及び10日に実施した国土交通省及び同省関東運輸局への要望では、国土交通省の藤田鉄道局長及び濱関東運輸局長から、「沿線地域において、長い間熱心な取組がなされていることは承知している。延伸に向けては、こうした地域の総合力が重要であり、沿線地域のまちづくりや需要喚起の取組状況を踏まえながら検討していきたい。」とのコメントを頂きました。

また、平成27年11月6日に実施した埼玉県への要望では、上田知事から、「国の交通政策審議会のヒアリングにおいて、12号線の延伸による効果等を説明した。12号線の延伸計画は、沿線地域のまちづくりも含め熟度が高いと考えている。今後も引き続き県と地元市区の総合力を結集し、所期の目的達成に向けて努力していきたい。」とのコメントを頂きました。

国土交通省



関東運輸局



埼玉県



平成27年8月19日、新座市、清瀬市、所沢市及び練馬区で構成する「都市高速鉄道12号線延伸促進協議会」（会長・須田健治新座市長）では、地下鉄12号線（都営大江戸線）の光が丘駅からJR武蔵野線東所沢駅までの区間の一体的かつ早期の整備着手について、東京都に対し要望を行いました。

安井東京都技監からは、「大江戸線は、地域間の連携を図る上で重要な路線であり、また、鉄道はネットワークの形成が重要であることから、JR武蔵野線への延伸も意義があるものと考えている。路線の整備に当たっては、財源確保のほか、収支採算性の確保が必要であり、沿線開発の推進など地元自治体の積極的な取組が重要である。今年は、国の交通政策審議会の新たな答申が示される大変重要な年であり、都の考え方が答申に反映されるよう働き掛けを行うとともに、今後とも望ましい鉄道ネットワークの形成に向けて互いに協力しながら推進を図っていききたい。」とのコメントを頂きました。

協議会では、地下鉄12号線が早期に延伸されるよう、今後とも積極的に活動してまいります。

安井東京都技監（右から3人目）  
と協議会役員（同4人目が須田市長）



安井東京都技監（左から5人目）、  
須田市長（同4人目）と都議会議員

